

平成二十六年 第四期くまもと俳句ポスト

第四期開函

日本伝統俳句協会評議員 井芹 眞一郎 選

特選

風鈴や漱石先生執筆中

茨城県笠間市

蒲生友紀子

【講評】夏目漱石は明治二十九年から四年余り、第五高等学校（現在の熊本大学）の教師として熊本に滞在した。其の間に六回ほど住居を変えているが、五番目の家が当時のまま現存している。訪れると今にも漱石が現れて来そうな雰囲気漂う。掲句、風鈴の音色を通して遙か夏目漱石の居た時代へタイムスリップした作者の想いが伝わってくる。

入選

蝉時雨天守閣まで沸き上がる

熊本県熊本市

三隅康資

涼しさや八雲旧居の青畳

東京都新宿区

大山千代子

坪井川渡れば旧居夏木立

愛知県愛西市

小川弘

佳作

郷愁の志士の対話や夏座敷

熊本県合志市

牛嶋久

ねんごろな案内の嬉し風薫る

兵庫県姫路市

小坂佐紀子

おそろしや八雲旧居の平家蟹

熊本県熊本市

川嶋清か

赤レンガ漱石しのぶ新樹光

福岡県宗像市

中川博子

夏座敷旅の疲れの足くづし

千葉県千葉市

宇留野ひとみ

こころざし高き榎の木梅雨晴れ間

愛知県岡崎市

加藤清子

くちなしの匂ふ漱石旧居かな

長崎県諫早市

麻生勝行

八畳の八雲の書斎新樹光

兵庫県姫路市

小坂晶子

踏めば鳴る八雲の廊下風涼し

兵庫県姫路市

小坂文之

やぶ椿落ちてあたりを明るうす

大阪府熊取町

阪本博子

投句総数

一五一句

市外

八五句

市内

六六句

開函日 平成二十六年六月三十日